

## 第 53 回水工学に関する夏期研修会 報告

主催：海岸工学委員会，水工学委員会

場所：大阪大学吹田キャンパス 工学部 S1 棟 311 号室，312 号室

A コースプログラム：

河川・水文コース 「河川の維持管理と流域の保全」

8 月 31 日（木）

9:00～10:30 堤防における土粒子－土－地盤構造と水の相互作用

前田健一（名古屋工業大学・教授）

10:45～12:15 河川災害と維持管理

井上智夫（国土交通省近畿地方整備局・企画部長）

13:15～14:45 都市を襲う水災害の防除の現状と課題

石垣泰輔（関西大学・教授）

15:00～16:30 ダムの維持管理－堤体及び基礎地盤を中心として－

山口嘉一（土木研究所・理事）

9 月 1 日（金）

9:00～10:30 点検データを活用したアセットマネジメント

貝戸清之（大阪大学・准教授）

10:45～12:15 流砂系の土砂動態解析モデルの現状と課題

藤田正治（京都大学・教授）

13:15～14:45 河川植生の維持管理～基本と実践～

大石哲也（土木研究所自然共生研究センター・主任研究員）

15:00～16:30 ダムおよび河川のニーズに立脚した流砂系総合土砂管理と貯水池土砂管理

角 哲也（京都大学・教授）

参加者数 A コース 117 名（一般 104 名＋学生 13 名） B コース 72 名（一般 60 名＋学生 12 名）

総計 189 名

テキスト販売 A コース 8 冊，B コース 1 冊（今後増加の見込みあり）

収支 収入 293 万円－支出 171 万円－管理費 88 万円 40 万円程度の黒字の見込み

（黒字の要因：参加者数の増加，テキスト印刷費の縮減）



## アンケート集計結果（Aコースのみ、回収数 85）

### 1. 受講者の属性

職業	回答数	居住地域	回答数	どうして知ったか	回答数
大学	2	北海道	5	研修会ポスター	14
研究期間	4	東北	5	土木学会氏	13
民間会社	67	関東	19	WWW	18
学生	7	中部	8	研究室の教員	9
その他	4	近畿	38	知人	15
		中国	3	その他	26
		四国	5		
		九州・沖縄	2		
		その他	0		

（含 職場内の回覧等 16  
河川技術シンポ 2）

参加理由	回答数	申し込む判断基準	回答数
自己研鑽のため	68	開催場所	25
会社の命令	18	開催日程	12
教員の勧め	7	テーマ	61
その他	0	講師陣	21
		個別の演題	18
		8月の公開した講義集のチラ見	3

### 2. 内容の感想

研修会に参加して	回答数	共通講義について	回答数	質問時間は	回答数
とても良かった	20	とても良かった	16	特に必要ない	14
良かった	55	良かった	49	時間に余裕がある時のみ	52
普通	7	普通	15	事前に設けるべき	18
あまり良くなかった	0	あまり良くなかった	1	長め	4
良くなかった	0	良くなかった	0	短め	15

参加費	回答数	会員・非会員の設定	回答数	今後の講習会に	回答数
とても高い	5	参加費の差はあってもよい	25	是非参加したい	20
高い	41	同額のままだがよい	33	参加したい	56
普通	38	どちらでもよい	27	どちらともいえない	7
安い	1			あまり参加したくない	0
とても安い	0			参加したくない	0
				その他	1

講義スライドのコピーを	回答数	今後の講習会に	回答数
是非利用したい	48	是非参加したい	20
利用したい	34	参加したい	56
どちらともいえない	2	どちらともいえない	7
特に必要ではない	0	あまり参加したくない	0
		参加したくない	0
		その他	1

### 3. 今後取り上げてほしいテーマ

大規模災害に対する減災／実務的には設計方法（実例等を用いた）／国交省の職員の方による経験等／マネジメント・メンテナンス／河道計画検討・氾濫解析／防災分野／粒子法・DEM等の3次元の数値計算についての講演→粒子レベルで得られた結果をどのように利用していくのか？今後の目的を知りたい。実務に使えるようになるのか？／想定最大外力にも対応しうる治水、防災／総合土砂管理／ダム堆砂対策／グリーンレーザーによる測量技術／中小河川をテーマとした内容／リモートセンシング／ADCP、PIVなどの観測技術／他分野の最新のトピック（今回のアセットマネジメントのような）／仕事で、水面計の計算をする機会があるので、等流・不等流、また管水路の流れ、粗度など水理学の基礎的な講義を追加していただきたい。学生のととき水理学を勉強していない方を対象とした講義があるとよい。夏期研修会でなくて、基礎水理部会でとりあげてもらってもよい。／雨水管理総合計画に関するもの／ドローンや水中ロボット等最新計測機器を用いた河川点検の事例紹介など。／維持管理のICT技術（RoVやレーザー以外）／今回の講義の「河川植生の維持管理」のように、例えば魚類などで動植物の維持管理や最新の管理情報について取り上げて頂けるとありがたいです。／河川構造物の耐震・対津波 ・河川構造物の維持管理 ・河川のストック効果／河川の二極化対策について／津波による陸域への塑上（数値計算）か大阪のポンプ施設等にする排水機能について知りたいので、取り上げてくださったら嬉しいです。／激甚化する洪水被害に対するハード・ソフト対策に関する講義／アセットマネジメント・ビッグデータに関するお話が興味深かったです。水工学としては異なるかも知れませんが、統計分析に関することを取り上げていただきたいです。IOT、樹木管理／中流域、下流域の堆砂や河床低下について／準二次元以上のシミュレーションの扱いについて／河川におけるCIMの活用例と、今後の河川の管理について（河道と堤防の両方）／維持管理（点検）の実例（良かったこと悪かったこと）／・河川構造物 ・堤防 ・CIM／ロボットに関して ICTに関して／・河道計画 ・洪水予測 ・計測技術の高度化（流量観測、水計観測、測量、土砂等）／河道掘削などの河積拡大後における維持管理手法について／地球温暖化による気候変動（降水量の変動予測 etc）／・今回のようなインフラの維持管理に関するテーマを継続してやってほしい ・また維持管理の基本的な学問体系に関する講義も興味がある。／

### 4. その他ご意見ご感想

CPDのエビデンスがBコースのみ準備していることでした。A・Bいずれも準備していただき良かったです。（入江註：A・Bコースとも準備していたが、Aコース分が早々に不足した。建設コンサルタント協会さんからの注意喚起が必要）／・音声（マイク）をしっかりと・部屋が寒すぎる 講座に集中できるようにしてほしい／時々最新知識にふれることも必要と感じています／導入のところから非常の丁寧の説明してくださってとても分かりやすかったです。ありがとうございました。／貝戸先生のご講演が非常に興味深かったです。河川分野では、橋梁分野ほど目視点検データ（冠水域等目視確認が困難な箇所）収集が進んでおらず、今後の課題であると思っておりましたが、収集データの処理について今回話を伺い、重要性について理解できました。／初めて研修会に参加したが、とてもよかった。次回以降も参加しようと思います。／河川の分野のみならず、いろいろ聞くことができ、ためになりました。／様々な講義により広い知見を得ることができました。ありがとうございました。／河川技術に関する最新の知見が得られ、良かったです。／会場に不満が残りました。

(交通、空調面) / 地方だと参加しにくいので、毎年東京か大阪がよい。 / とても良い講義がほとんどでしたが、自研究の発表にとどまるものもあったので、その辺りが残念でした。 / 日程をできれば月中旬にしてほしい。月末は事務処理におわれるため / 室内が寒かったため、空調の風向きを上に向け、人の体に当たらないようにした方がいいかと思います。 / スライドを事前にネット配布してほしい。 / 地図がわかりにくかった。 / 部屋が非常に寒かった。 / 勉強になるお話ばかりで貴重な経験になりました。ありがとうございました。 / 講義集をカラー印刷のものにして頂きたいです。

(コンタ図などが見づらい)・発表資料 (PPT)の配布をして頂けるとうれしいです。この度は、記帳な研修会の機会を頂きありがとうございました。 / ・10の質問について 入社して間もない社員も参加しており、まだ土木学会会員ではありません。このような研修をきっかけに会員になったりしますので←自費なので、同額で参加しやすい方が良くと思います。 ・前田先生の資料は実験動画が沢山あり、わかりやすかったです。 / マイクをなんとかしてほしい / 自分の専門外の話が多かったです、興味深く聞けました。特にA・B共通の講演2つ / ・音響装置の状態が悪く、聞き取りにくい講義があった。 ・CPD発行についての案内をもう少し親切にして欲しい。 / 他分野の研究者の話があってもよい(土木以外) / 寒い、風が強すぎる / 4月入社の新入社員であるため、勉強のために参加させていただきました。土木構造物の維持管理の重要性を改めて実感することができました。入社1~2年目の若手社員・職員向けの階層別の講義が充実するとありがたいです。 / 今回はA・B共通講義は興味深かった。今後も続けてほしいです。 「研修会に申し込む判断」がアンケートであったが、子育て中の女性については、アクセスの良さが重要となります。 / 今回のように、すべての水工のテーマの講義ではなく貝戸先生の発表のように他の分野の内容の講義も一つぐらいあってもいいと思った。・異分野間を横ぐしにすることで、共通の課題や気づきがある。・今回はバランスが良いカリキュラムであった。

<建設コンサルタント協会 CPD ガイドラインより抜粋>

#### 4 CPD 記録のエビデンス (受講証明書、参加証明書等)

CPD 記録の受講証明書等のエビデンスは、CPD 記録申請時に自己学習と技術資格の取得の一部を除く全ての形態内容において添付が必須です。また、形態内容「1 講習会、講演会、現場見学会 等への参加」については、「主催者発行の受講証明書や参加証明書」の添付を原則とします。「1-B JCCA 以外の建設系 CPD 協議会構成団体 (支部・傘下組織含む) 主催プログラム及び JCCA 以外の建設系 CPD 協議会構成団体認定プログラム」と「1-C のプログラム (1-A、1-B 以外)」については、主催者から受講証明書等が配布された場合は、その受講証明書で申請可能ですが、主催者から発行されない場合を考慮し、持参して証明印をもらうための「受講証明書・参加証明書」を協会を用意しています。CPD システムトップ画面「受講証明書・参加証明書ダウンロード」から、「受講証明書・参加証明書」をダウンロードし、証明書の空欄箇所に必要事項を記入のうえ、プログラム開催当日主催者に提示し、主催者の証明印をもらってください。主催者の証明印は、参加当日にしかもらえない場合がありますので、忘れずに持参してください。

# 水文部会構成

- 部会長
  - － 大石哲(神戸大学・理化学研究所計算科学研究機構)
- 副部会長
  - － 鼎先生(東京工業大学)
- 河川部会連携委員
  - － 吳先生(富山県立大学)
  - － 仲吉先生(東京理科大学)
- 地球環境委員会委員
  - － 佐山先生(京大)

# 水文部会2017年度報告

- 水文部会 2017年9月11日(月)12:15～13:00
  - 九州大学ウエスト2号館3階318
  - 参加者8名
- 第18回地下環境水文学に関する研究集会
  - 7月8日(土)～9日(日)
  - 和歌山県立文化会館(中川啓先生)
- 水文部会研究集会
  - 9月29日金曜～30日土曜
  - 鹿児島, 種子島, JAXA種子島宇宙センター



研究会  
西之表市民会館会議室

発表  
鼎先生  
田中颯馬さん  
田村先生  
渡部先生

# 水文部会2017年度計画

- 第2回水文部会
  - － 水工学講演会の期間中
  - － 岡山大学
- 水文部会の講習会
  - － レビューアー, エディターから若手へ
  - － 日時・場所 未定

「第22回水シンポジウム2017 in おきなわ」  
プログラム(案)

- 10月31日(火) 第1日目 シンポジウム  
会場：タイムスホール(約350人を想定)
- 【午前の部：メイン会場(タイムスホール)】
- 9:00 開 場  
9:30 開 会(30分)  
シンポ趣旨説明(2分) 司会  
開会挨拶(8分) 実行委員会委員長  
実行委員紹介(2分) 司会より紹介、壇上一礼  
来賓挨拶(各5分) 沖縄総合事務局長、沖縄県知事、那覇市長  
プログラム案内(3分) 司会
- ※壇上片付・準備(5分)
- 10:05 特別講演(50分)  
竹村公太郎 様(NPO 法人日本水フォーラム代表理事・事務局長)
- ※壇上片付・準備(5分)
- 11:00 こどもたちによる発表(40分)  
① 国頭村立奥小学校児童による発表
- 11:40 昼 休 憩
- 【午後の部：分科会等】
- 12:40  
テーマ別分科会(120分)  
第1分科会 担当：土木学会 会場：県庁講堂 280席  
第2分科会 担当：行政 会場：沖縄タイムスホール 350席
- 14:40 休憩(20分)
- 15:00 招待講演(50分) 中北英一 様(京都大学防災研究所教授)  
(別会場：全体会議打合せ)
- ※壇上片付・準備(5分)
- 15:55 全体会議(60分)  
各分科会まとめとメッセージ発信
- ※壇上片付・準備(5分)
- 17:00 次回開催県挨拶(10分)
- 17:10 閉 会
- 【パネル展示】(県庁1階ロビー及びタイムスビルロビー・ギャラリー等利用)
- 11月1日(水) 第2日目 現地見学会(首里城・倉敷ダムなど)  
定員 約40人を想定

## 基礎水理部会活動報告（10月6日水工学委員会）

部会長：木村一郎

### 1. 部会内規の作成

・部会内規の作成に向けて、まずは部会の目的は【資料1】のように置くことで了解を得た。

### 2. オブザーバー制導入について…次のような方針の下で進めることで合意。

◆ 背景：有望な研究者（特に若手）の入会を進め部会活動活性化。部会員枠（30名）に空きが無い

◆ 目的：オブザーバー制度の導入によって、部会定員枠を実質的に無くす（同様の試みは既に環境水理部会にてなされており、制度的な問題は無い）

◆ 誰がオブザーバーになる？オブザーバーと正規部会員の相違？：

- ・主にシニア部会員のオブザーバーへの移行を想定
- ・原則として、部会員の自発的意思に基づく
- ・名称以外は相違無し（発言権/議決権等、正規部会員と完全に対等；お弁当も準備）
- ・執行部メンバ（部会長, 副部会長, 幹事）は部会員から選出。オブザーバーは含めない。

### 3. WG等の活動

◆「流砂・河床変動に関する若手勉強会」が新WGとして発足。

・方針：流砂・河床変動に関する既往研究成果や今後の課題を若手研究者の中で共有することを目的に年に2回程度開催。テーマと場所を変えながら継続。

・現員：井上(寒地土研), 鶴崎(群大), 横嶋(静大), 原田(岐阜大), 音田(京大), 吉田(岡大), 内田(広大)

・第1回：7/11(火), 12(水)に一般財団法人北海道河川財団（札幌）で開催。テーマは小規模河床波。

・第2回：11/20(月), 21(火)に静岡大学で開催予定。テーマは砂州

### 4. 基礎水理シンポジウム・・・【資料2】

### 5. 見学会・・・【資料3】

### 6. その他：12<sup>th</sup> Ecohydraulics 国際会議, 東京（別紙）12/29 アブスト×切, 奮ってご投稿を！・・・【資料4】

### 7. iRIC 10周年記念シンポジウム・・・【資料5】

## 基礎水理部会の基本理念

◆**要約**「水工学およびその応用分野に対し、その根底にある水の力学としての水理学を軸足としたアプローチを行い、現象の深い理解を目指す。これを通じて現代の多様なニーズに即した水工学の新たな体系化を目指す。」

◆**全文**：近年、水工学分野の研究は、地球規模の気候変化、社会情勢の変化、またこれらに伴う社会からの要求の多様化を受けて、その対象とする範囲を急速に広めつつある。このような変化の中で、往々にして個々の事象の表面的な特性やケーススタディ等、応用面、実用面に重きを置いた研究が重視されがちである。しかしながら、現象に潜むメカニズムをおろそかにすれば、学問の体系に綻びをきたし、研究の発展性は失われるであろう。水工学分野において最も重要な基盤となる学理は水理学であることに疑いの余地は無く、これは流れの力学を体系化する物理学の一分野と位置付けられる。基礎水理部会は、水工学に関わる研究分野の拡大や多様化を支持しつつも、その根底にある基礎力学は最も重視されるべきであるという共通認識のもと、研究の軸足を常に水理学に置き、水工学に関わる現象の深い理解を目指す。これらの活動を通じ、水理学という共通軸のもとで現代の多様なニーズに即した水工学の新たな体系化を目指す。さらに、これらの活動を次世代に繋げていくため、若手研究者の育成を推進する。

# 基礎水理シンポジウム 2017

主催： 土木学会 水工学委員会 基礎水理部会  
日時： 2017年12月06日（水） 10:20-17:25  
会場： 土木学会 講堂（東京都新宿区四谷一丁目 外濠公園内）  
<http://www.jsce.or.jp/contact/map.shtml>  
参加料： 無料  
定員： 120名  
CPD単位： 申請予定

10:20-10:30 開会挨拶：木村 一郎（土木学会 基礎水理部会 部会長）

10:30-11:10 岡本 隆明（京都大学 大学院工学研究科 社会基盤工学専攻 助教）  
植生流れの乱流構造の遷移・発達過程と組織渦の3次元構造について

11:10-12:20 **基調講演**  
河原 源太（大阪大学 大学院基礎工学研究科 非線形力学領域 教授）  
矩形ダクト乱流の二次流れ

13:30-14:40 **基調講演**  
佐野 雅己（東京大学 大学院理学系研究科 物理学専攻 教授）  
層流・乱流転移と有向パーコレーション相転移

14:40-15:20 鵜崎 賢一（群馬大学 大学院理工学府 環境創生部門 准教授）  
Langmuir 循環流の形成機構と湖沼・沿岸域の水質環境における影響

15:40-16:30 井上 道雄（Mathworks Japan）  
Wall-modeled LES applied to the flat-plate turbulent boundary layer

16:30-17:20 岩山 隆寛（神戸大学 大学院理学研究科 惑星学専攻 准教授）  
地球大気における大規模・中規模乱流のエネルギースペクトル

17:20-17:25 閉会挨拶：杉原 裕司（土木学会 基礎水理部会 副部会長）

河川見学会 2017 (H29 年度第 2 回基礎水理部会も含む)

- 対象河川
  - + 大井川・安倍川
- 実施年月日
  - + 2017.10.22 (日) -24 (火)
  - + 集合：10/22 (日) 15 時頃？ ラクーネしまだ (10/22 宿泊施設、JR 島田駅近く)
  - + 解散：10/24 (火) 15 時頃 JR 静岡駅
- 参加予定者
  - + 10 名
- 予定
  - + 10/22 (日) H29 年度第 2 回基礎水理部会
  - + 10/23 (月) 大井川見学 (詳細は現場案内行程案を参照)
  - + 10/24 (火) 安倍川見学 (詳細は現場案内行程案を参照)

## 現場案内行程(案)大井川

1. 日時 10月23日(月)
2. 案内人
3. 移動車両 静岡河川事務所マイクロバス
4. 行程

順序	行き先	上段(着)	移動時間	滞在時間	備考
		下段(発)			
	ホテル				
		7:10			
			0:10		徒歩
	島田駅	7:20		0:07	
		7:27			
			0:05		東海道本線(浜松行き)
	金谷駅	7:32		0:16	
		7:48			
			1:15		千頭行き(車両番号3)
	千頭駅	9:03		0:09	
		9:12			
			0:51		南アルプスあぶとライン下り201
	長島ダム駅	10:03		0:00	
		10:03			
			0:07		徒歩
1	長島ダム	10:10		1:50	概要説明(20分)・ダム施設見学(90分)
		12:00			
			0:15		
2	昼食	12:15		1:15	カフェうえまる(仮)
		13:30			
			1:10		
	牛尾開削	14:40		0:10	赤松地藏尊より牛尾開削部望む
		14:50			
			0:20		
3	牛尾開削現場	15:10		0:20	
		15:30			
			0:25		
4	蓬莱橋	15:55		0:25	
		16:20			
			0:25		
5	粘り強い防潮堤	16:45		0:15	
		17:00			
			0:45		
6	ホテル	17:45		0:30	
		18:00			
			0:05		
7	意見交換会場	17:50		2:10	かんかん酒場本店
		20:00			
			0:15		※徒歩
8	ホテル	20:15			(ホテルドルフ)

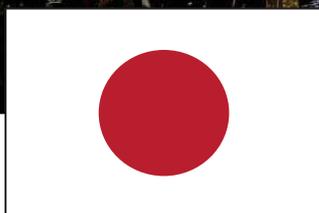
## 現場案内行程(案)安倍川

1. 日時 10月24日(火)
2. 案内人
3. 移動車両 静岡河川事務所マイクロバス
4. 行程

順序	行き先	上段(着)	移動時間	滞在時間	備考
		下段(発)			
	ホテル				車3台で
		9:00	0:30		
1	円山花木園	9:30		0:15	河口部より安倍川を望む
		9:45	0:30		
2	静岡河川事務所	10:15		0:10	1BOXからマイクロに乗り換え
		10:25	0:10		
3	巨石付き盛り土砂州	10:35		0:30	
		11:05	0:50		
4	昼食	11:55		1:00	三保松原近辺で(未定)
		12:55	0:15		
5	三保松原	13:10		1:00	総合土砂等
		14:10	0:40		
6	静岡駅	14:50			

# 12th International Symposium on Ecohydraulics (ISE2018), Tokyo, JAPAN

August 19-24, 2018



**ISE 2018**  
International Symposium on Ecohydraulics



**ISE 2018**  
International Symposium on Ecohydraulics

The symposium will jointly be convened by the International Association for Hydro-Environment Engineering and Research (IAHR) and International Society for River Science (ISRS).



Supported by



Tokyo metropolitan government  
Kurita Water and Environment Foundation (KWEF)



## Venue

Nihon University  
College of Science and Technology



70min from Narita international airport  
ISE2018 Narita  
Tokyo  
40min from Tokyo international airport



## Venue (at the center of Tokyo)

Nihon University  
College of Science and Technology  
Meeting Room



Lecture Room



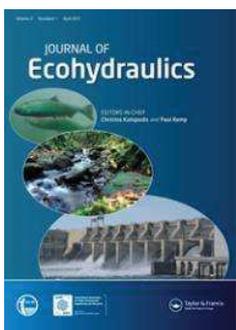
## Themes

- a) aquatic biota movements
- b) e-flows, i.e. environmental, instream or ecological flow regimes
- c) lake and river habitat restoration

The symposium will also cover themes related to ecohydraulics; basic hydraulics, riparian and lake ecosystems, water resources engineering, fluvial processes and geomorphology, riparian ecology, aquatic ecology and physiology, flood protection, etc.

## Publication of Special Issues:

- Journal of Ecohydraulics as the main journal for the special issue  
<http://www.tandfonline.com/loi/tjoe20>  
and more from special sessions



## Keynote Speakers (from wide fields)



**Paul Kemp:** University of Southampton, UK



**Gregory B. Pasternack:** UC Davis, USA



**Michael Stewardson:** University of Melbourne, Australia



**Katsumi Tsukamoto:** Nihon University, Japan



**Michael Monaghan:** IGB, Germany



**Matthew O'hare:** Centre for Ecology and Hydrology(CEH), UK



**Michael McClain:** UNESCO-IHE Institute of Water Education,  
Netherlands



**ISE 2018**  
International Symposium on Ecohydraulics

## General Sessions

### A. Ecohydraulics in practice:

1. Environmental flows
2. Fish passage and movement
3. Hydropeaking
4. River channel management and restoration
5. Wetland management and restoration
6. Riparian zone management and restoration
7. Floodplain rehabilitation
8. Restoration of ecological network and connectivity
9. Catchment/river basin restoration
10. Riverscape design and riverfront space utilization
11. Planning, implementation processes and citizen participation
12. Ecosystem based disaster risk reduction (Eco-DRR)
13. Water-food-energy nexus
14. Any other aspect of ecohydraulics in practice

### B. Fundamentals of ecohydraulics:

1. Experimental hydraulics and hydrodynamics
2. Remote sensing and underwater sensing
3. Hydrogeomorphology
4. Hydraulics-ecology interactions
5. Hydrology-ecology interactions

6. Vegetation and fluvial processes
7. Sediment-ecology interactions
8. Ice-ecology interactions
9. Surface-groundwater interactions
10. Ecological processes in the hyporheic zone
11. Estuarine and coastal ecohydraulics
12. Physico-chemical & biological processes in water quality-ecology interactions
13. Dryland flow-ecology
14. Catchment/river basin-scale ecohydraulics
15. Aquatic ecology
16. Genomics and bioinformatics in ecohydraulics
17. Big data and data analysis
18. Data-driven and knowledge-based modelling
19. Predictive modelling and uncertainty management
20. Ecosystem services from aquatic systems
21. Human impacts on aquatic ecosystems
22. Any other aspect of fundamental ecohydraulics



**ISE 2018**  
International Symposium on Ecohydraulics



## Registration

	Early bird Registration* (JPY)	Late Registration* (JPY)
IAHR Member		
ISRS Member	50,000	70,000
Session organizer		
Non-Member	60,000	75,000
IAHR Student Member	20,000	30,000
ISRS Student Member		
Student Non-Member	25,000	35,000
One day	–	20,000

Each full/student registration fee includes

\*inclusive of VAT of 8%

- ✓ Admission to all sessions (keynote sessions and technical sessions)
- ✓ Coffee breaks
- ✓ Admission to the welcome reception
- ✓ One copy of the program booklet, and
- ✓ One copy of the proceedings.

## Local Organizing Committee

### **Takashi ASAEDA (Saitama University) (Chair)**

Norio TANAKA (Saitama University) (Secretary General)

Shinji FUKUDA (Tokyo University of Agriculture and Technology)

Makoto NAKATSUGAWA (Muroran Institute of Technology)

Yoichi YASUDA (Nihon University)

Ryota TSUBAKI (Hiroshima University)

Yasuharu WATANABE (Kitami Institute of Technology)

Keiko Muraoka (Public Works Research Institute)

Muneyuki AOKI (Toyo University)

Hiranya Jayasanka (Saitama University)



**ISE 2018**  
International Symposium on Ecohydraulics

# More information related to ISE2018



12th International Symposium on Ecohydraulics



Aug 19~Aug 24, 2018, Tokyo, JAPAN

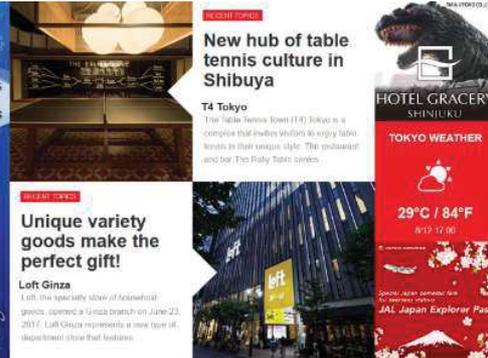
<http://ise2018.com/>

Official Tokyo Travel Guide

**GO TOKYO**

THINGS TO DO \* EATING OUT \* SHOPPING \* WHERE TO STAY \* TRANSPORT \* TRAVELLER INFO \*

**PAST & FUTURE:**  
Uncover Tokyo's dazzling culture



<http://www.gotokyo.org/en/index.html>

Tokyo is home to the world's largest number of Michelin-starred restaurants!



# 食

Eating out

## Enjoy Japanese food!

## Art & Museum

- Take one step further and get to know Tokyo in greater depth through works of art displayed in the metropolis's unique museums
- National museums, Zoo, Aquariums, within a 5 km of the venue.



For more information, please visit the Official Tokyo Travel Guide  
<http://www.gotokyo.org/en/index.html>

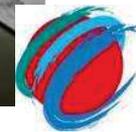
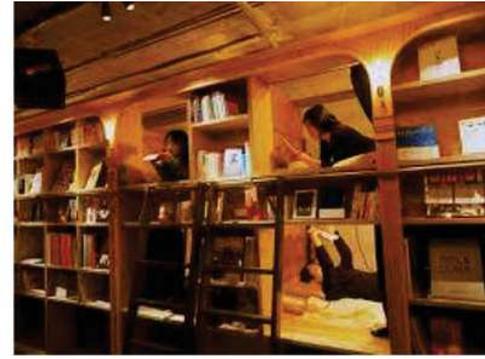
## Culture

SAMURAI-侍、NINJYA-忍者、KIMONO-着物、ZEN-禅

- You can experience basic skills with FUN!



## Where to Stay



**ISE 2018**  
International Symposium on Ecohydraulics

## Kyoto, Sapporo, Hiroshima... and more local areas



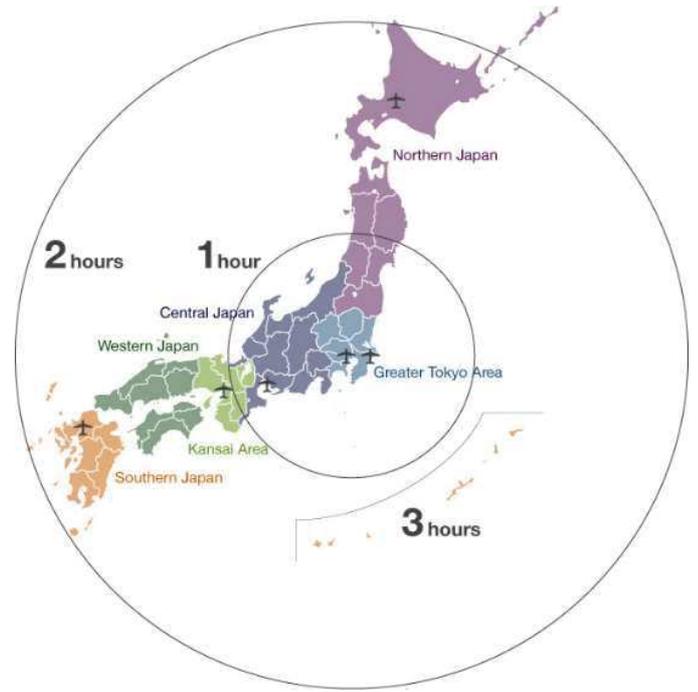
Japanese Castles



Wild Japanese macaques and hot spring

# Traveling Japan

- From Tokyo Haneda Airport, you can reach most of all major cities in one to two hours
- Japan is covered by an extensive rapid rail network, including the famous Shinkansen bullet train



Public transportation net cover most of Local area of Japan.



Welcome to ISE 2018 in Tokyo

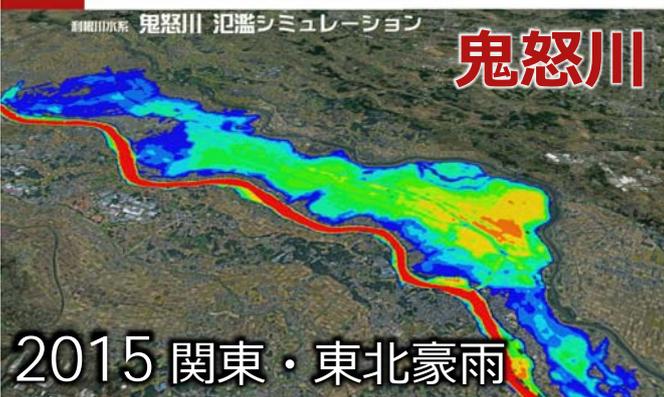
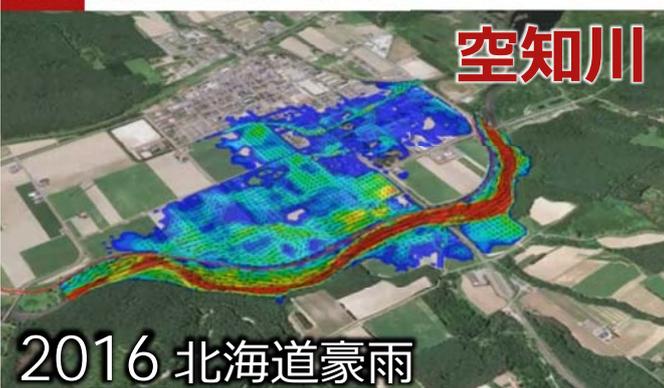
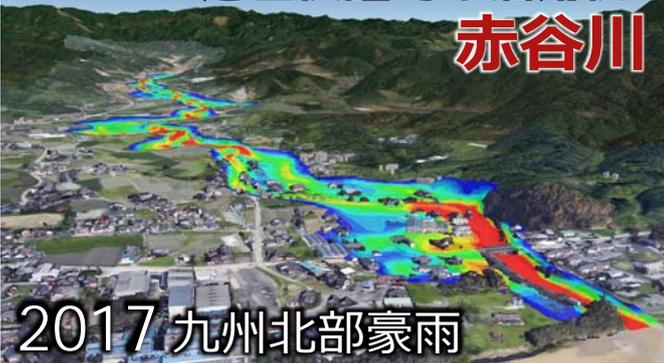


研究者が開発した最先端の計算モデルを、操作性のよい無料のソフトウェアとして提供することで誰でも河川の流れ・河床変動が解析出来るようにしたいとの思いで立ち上げたiRIC (international River Interface Cooperative) プロジェクトが構想から10年を迎えました。

これまでユーザを第一に考えたソフトウェア開発、研究者を中心とした開発者とユーザの相互理解を目的とした講習会開催を積極的に行ってきました。結果、全世界で7000人以上もの研究者、技術者、学生らがiRICソフトウェアを利用する状況となり、それら成果は、論文、学会、業務等のあらゆる方面で見ることができるようになってきました。一方で、構想から10年を経過したことで、今後の開発や運営方針に関する課題もいくつか見えてきている状況です。

今回の記念シンポジウム、「iRIC Journey」では、これまでの成果と見えてきた課題をふまえ、今後もiRICがより発展的な活動を継続できるよう、ご来場の皆様とともに様々な議論を行いたいと考えています。

## 近年の記録的豪雨災害等の 氾濫検証での活用例



### シンポジウム会場

北海道大学 フロンティア応用科学研究棟  
2階 (鈴木章ホール)

Google Maps



### 記念パーティー会場

北海道大学構内 エンレイソウ

Google Maps



## 10周年記念 シンポジウム

13:00~17:00

### I iRICの取組み

挨拶：岡部和憲 一般財団法人北海道河川財団 理事長

iRICの軌跡：清水康行 北海道大学工学研究院 教授

### II これまでの活用事例

実務現場：北海道開発局、北海道

教育現場：岩崎理樹

国立開発研究法人土木研究所 寒地土木研究所

### III 最新版iRICソフトウェア紹介

・ソフトウェア全体：旭一岳 (株) RiverLink

・Nays2DFlood：井上卓也 国立開発研究法人  
土木研究所 寒地土木研究所

・NaysCUBE：木村一郎 北海道大学工学研究院 准教授

### IV パネルディスカッション ～ iRICの未来～

コーディネーター：竹林洋史 京都大学  
防災研究所 准教授

## ポスター展示 13:00~17:00

iRICは、災害調査や環境評価、河川地形学に関する研究・調査・計画等、様々な分野で活用されています。会場前特設コーナーにおいて、それらのiRIC活用事例を紹介するポスター展示を行います。

# 環境水理部会報告

部会長 矢島(島根大学)

副部会長 矢野(九州大学)

WG:閉鎖性水域研究WG(矢島):

温暖化適応WG(矢野):

合併

動的総合土砂管理に関するWG(竹林):

樹林化WG(宮本・赤松):

## シンポジウム

「ダム貯水池の水環境に関する現状と将来 in 島根」開催

平成29年11月7日 松江テルサ (100人規模)

# 水害対策小委員会活動報告

## 2017年7月以降の活動

2017年7月10日：土木学会水工学委員会九州北部豪雨災害調査団の結成

団長：九州大学・島谷教授

応用生態工学会との合同調査団

2017年9月 7日：九州北部豪雨災害の速報会を全国大会開催に合わせて九州大学で実施（参加人数：330名）

## 2017年度の活動予定

2017年10月30日：那覇で九州北部豪雨災害調査のミニ報告会を開催

2017年10月以降：国内・海外の水害調査サポート

2017年3月：河川災害に関するシンポジウム（岡山大学）

- ・ 調査方法の統一化WG
- ・ 消防連携WG
- ・ 災害写真データベースシステムの構築

# グローバル気候変動適応研究推進小委員会 活動報告

委員長: 矢野(九州大)

活動報告:

1. H29年度第1回小委員会:

H29/9/11 九大(福岡)にて開催 参加者16名

【報告事項】・平成29年度活動計画

【協議事項】・内規(案)について → [次回水工学委員会に最終案を提案予定.](#)

・10/30の沖縄でのイベントについて → [H29九州北部豪雨報告会を開催](#)

2. 全国大会共通セッション「気候変動による影響への適応」:

H29/9/11 九大(福岡) **5件**の講演.

3. 全国大会研究討論会「水工学分野の気候変動適応研究において社会実装の促進に何が必要か?」の開催:

平成29年9月11日(月) 13:00~15:00 九大工学部大会議室 参加者**100名**程度

【コーディネーター・座長】

中北英一(京都大学防災研究所教授)・矢野真一郎(九州大学教授)

【パネラー】

橋本典明(九州大学教授)・山田朋人(北海道大学准教授)・藤見俊夫(熊本大学准教授)・森啓年(山口大学准教授)・竹島睦(九州地方整備局河川部長)

続き

【構成】

- ・趣旨説明 矢野
  - ・コーディネーターから 中北先生 温暖化研究の状況など
  - ・パネラーからの話題提供
    - 1) 竹島部長: 国の施策における適応策の方針など
    - 2) 橋本先生: 佐賀県との適応策実装に関するプロジェクトの内容と課題
    - 3) 山田先生: 気象モデラーとしての社会実装への課題
    - 4) 森先生: 気候変動適応策としての堤防の研究
    - 5) 藤見先生: 計画系から見た水工系の適応策研究や政策の課題
- 全体討議(進行: 矢野)  
総括(中北先生)

## H29年度後半の活動計画:

1. 平成30年度重点研究課題(研究助成金)への応募:
  - ・本小委員会と海岸工学委員会の適応小委員会(委員長: 武若先生(筑波大))とのコラボで、適応策研究に関する内容で申請を計画中。
2. 平成30年全国大会(北海道):
  - ・共通セッション, 研究討論会の提案
3. 幹事会, 委員会を各1回程度実施予定。

減災・防災委員会 第1回緊急対応マネジメント小委員会  
議事録案

日 時：平成29年9月5日（火） 13:00～15:00

場 所：土木学会D会議室

出席者：松田小委員長、赤松、清田、副島、竹林（代理 谷）内藤の各委員  
塚田専務理事、塚原減災・防災委員会幹事長、事務局

配付資料

資料1-1：減災・防災委員会 委員構成

資料1-2：緊急対応マネジメント小委員会 委員構成

資料2-1：第1回 減災・防災委員会 議事録

資料2-2：減災・防災委員会 第1回幹事会 議事録案

資料3：土木学会災害緊急対応業務規程

資料4：各支部災害規則

資料5：災害調査団派遣の流れ

資料6：災害調査団派遣（内容変更）届

資料7：災害調査団派遣の流れの事例

資料8：緊急対応マネジメント小委員会のミッションについて

資料9：災害調査団派遣に際して

参考資料：土木学会支部と国土交通省整備局との災害時における協定の現況について

議 事：

松田小委員長挨拶の後、資料1-2に基づき出席者の自己紹介を行った。

#### （1）減災・防災委員会の経緯

塚田専務理事より資料に基づき、減災・防災委員会の委員構成、第1回委員会及び幹事会での災害発生時における対応に関する意見を中心に説明があり、緊急対応マネジメント小委員会としてのミッションと考えられる事項についての説明があった。

また、災害緊急対応業務規程及び各支部災害規則、災害調査団派遣届、派遣の流れ、国土交通省整備局との災害時における協定の概略説明があり、国土交通省整備局との災害時協定において、西部支部は既に協定を締結しているとの事であり、次回までに参考資料を更新する。

谷関西支部事務局長より資料9に基づき、災害調査を実施するにあたり、現状での懸案事項について説明があった。

#### （2）災害調査に際しての意見交換

資料の説明後に災害調査活動に際しての議論を行った。

- ・地震工学委員会では災害調査に関する事項を取り扱う小委員会として地震被害調査小委員会を設置している。

- ・土木学会の調査団として位置付けられるよりは、あくまで個人の研究として調査をしに行きたい人もいる。線引きが必要であり、先遣隊は明確にする必要があるのではないか。
- ・初動調査はあくまで大学の研究者としての立場で動いているのではないか。
- ・水害に関しても、地震被害同様に早急に調査の為に現地入りする。災害によっては調査が遅れると被災状況の確認ができないことがある。
- ・水工学委員会では被災地域の大学の先生に連絡を入れてから現地調査に入るようにしている。
- ・今までの災害調査において、調査するにあたり、やっておいて良かった、またはやっておけば良かったなどの事例を経験値として纏められたらいい。
- ・発災後、1～2日の初動調査で、どのくらいの成果が得られるのか？被災地に誰もかれも入っていくような状況は良くないのではないか。学会として少し制約を設ける必要があるのではないか。
- ・防災センターなどの組織を持っている大学は、そことの連携は必要ないのか？九州大学の場合は、あくまで事務的な問題だけで、旅費等の支弁の問題だけである。
- ・水工学委員会の水害対策小委員会は調査する費用をもっている。
- ・学生は大学が強制的に保険に入れている。
- ・ゼネコンでは最近では災害調査に行くことは難しい。行くとすれば個人的に行くことになる。但し、復旧のための調査は別。
- ・どのタイミングで正式調査団とするか。本部の調査団の定義。支部と本部の合同調査団にする。しない。などを明確にしておく必要があるのではないか。
- ・本部と支部で合同にするしないについては、支部によって対応の仕方が違ってくる。但し、調査は別々でも良いとは思いますが、外部の人から見れば、同じ土木学会なので外からの見目を纏める必要がある。
- ・各調査研究委員会の災害派遣ルールを纏めて、統一化したらどうか。
- ・西部支部は災害費用として別枠で予算があるようだが、他の支部には災害積立預金のようなものはない。
- ・支部と調査研究委員会が合同調査団を作ってくれる場合は、本部としては情報を共有しやすい。
- ・災害報告会の活動度評価の数え方を見直して欲しい。
- ・地震工学委員会は地震工学会及び地盤工学会と連携している。特に地震工学会は地震に特化しているので連絡網及び災害調査の為に予算を持っている。
- ・国土交通省や自治体との災害協定はGIVE&TAKEであるべき。
- ・緊急対応マネジメント小委員会は当面は国内災害に限定したものとする。

以上の意見交換から次回会議までに、下記について整理しておくこととした。

- ① 地震、地盤、水工学委員会で、災害に関して各地域の代表となる方を決めておいてもらう。その方についての情報は各支部と共有する。
- ② 各委員会の災害調査派遣ルールを提供していただき、情報を共有する為にも纏めておく。なお、提供いただいたルールから土木学会として最低限守るべきもの等を整理する。

③ 最近の災害のタイムラインを作成しておく。

熊本地震は松田小委員長、関東豪雨災害は塚田専務理事、九州北部豪雨は矢野先生にお願いする。

(3) 今後のスケジュールについて

今回は 11 月 8 日（水）10:00-12:00 土木学会 E 会議室で行う。

# 平成29年度第1回海岸工学委員会報告

6月20日14:00～17:00土木学会2階講堂

## ■ 委員交代・議事録確認

新委員長 岡安章夫（東京海洋大）

副委員長 後藤仁志（京都大）

幹事長 田島芳満（東京大）

## ■ 議事前報告

## ■ 第64回（本年度）海岸工学講演会 準備状況

日程：2017年10月25（水）-27（金）

場所：TKP札幌駅カンファレンスセンター

特別講演会：「大型振動流装置を用いた底質移動特性に関する研究」 講演者：Ole Secher Madsen MIT 名誉教授

前日シンポジウム：「陸からみた津波減災施設 – 減災アセスメント小委員会中間報告 –」

企画セッション「流砂系の総合的な土砂管理と海岸保全」

362編投稿 287編採択

## ■ 第65回（次年度）海岸工学講演会の開催について

日程：2018/11/14（水）～16（金）

会場：とりぎん文化会館（鳥取市）

## ■ 第53回（本年度）水工学に関する夏期研修会

大阪で開催（大阪大学荒木委員）

## ■ 研究小委員会等の活動について

## ■ Coastal Engineering Journal 出版社変更

1958前身誌創刊、1998 World Scientific社から新創刊

->2018年(60巻)からTaylor & Francis社

- ・売上の10%の印税

- ・著作権を学会が独占して保有

- ・前身雑誌(Coastal Engineering in Japan) をPDF化して提供

- ・賞に1000USD提供

- ・土木学会個人会員全員にアクセス権を付与

土木学会海岸工学委員会

沿岸域の気候変動影響評価・適応検討に関する小委員会（略称：気候変動小委員会）報告

神戸大学 小林健一郎

以下、武若委員長からのメール

## 【1】当面の活動について

現時点で、以下の項目を森先生と私で用意しています。皆様との議論を経て、当面の活動目標を定めたいと考えています。

a) 各メンバーの興味の紹介

b) 我が国の沿岸域における気候変動の影響評価、適応検討に関連する研究活動・成果を総括し（成果の体系化）、この方面の研究の展望を示す（これから海岸工学で取り組むべき課題の明確化）

c) 環境省環境研総合推進費 S-14「気候変動の緩和策と適応策の統合的戦略研究」、文部科学省「気候変動適応技術社会実装プログラム」、  
「統合的気候モデル高度化研究プログラム」等の大型プロジェクトの研究成果の紹介と普及

d) IPCC 第6次評価報告書（AR6, 2021年 or 2022年発刊予定）のスコーピング（2017年開始予定）に我が国の研究成果の反映等を目指す。

我が国の沿岸域における気候変動の影響評価、適応検討に関連する研究活動の政策への反映

e) その他の観点（皆様からの提案をお待ちします）

-----

## 【2】会合

メンバーの総数が22名で、全員が集まれる機会を見つけるのは簡単ではありません。今後スケジュールについてお伺いしますのでご協力をよろしくお願い致します。なるべく早くに開催できるように調整を試みます。

現在、予算（主に旅費）の獲得に向けて、いくつかの申請をする予定です。予算を獲得できた場合でも、支援できる金額には限りがあることをお含みおき頂ければ幸いです。

-----

【3】海岸工学講演会での顔合わせ（ランチミーティング）

海岸工学講演会に参加される方で、2日目の昼休みに時間のとれる方はランチミーティングにご出席をお願い致します。

海岸工学講演会（札幌）：2017年10月26日（木）12:10-13:10

→ 出席を頂ける方は武若まで連絡をお願い致します。弁当の手配をします。

期限：2017/10/11（Wed）

-----

【4】メンバーリスト（順不同・敬称略）

- # 武若聡（筑波大学）（委員長）
- # 森信人（京都大学）（副委員長）
- # 桑江朝比呂（港湾空港技術研究所）
- # 伴野雅之（港湾空港技術研究所）
- # 加藤史訓（国土技術政策総合研究所）
- # 桐博英（農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究部門）
- # 古市尚基（水産工学研究所）
- # 小林健一郎（神戸大学）（土木学会水工学委員会）
- # 石川洋一（海洋研究開発機構，JAMSTEC）
- # 二宮順一（金沢大学）
- # 辻尾大樹（パシフィックコンサルタンツ）
- # 篠原瑞生（東京海上日動リスクコンサルティング）
- # 有川太郎（中央大学）
- # 鶴崎賢一（群馬大学）
- # 武田将英（東亜建設工業）
- # 安田誠宏（関西大学）
- # 李 Lee Hansoo（広島大学）
- # 清野聡子（九州大学）
- # 羽角華奈子（大成建設）
- # 中村亮太（豊橋技術科学大学）
- # 中村文則（長岡技術科学大学）
- # 久保田真一（不動テトラ）

## 水工学委員会内規

昭和 45 年 9 月 22 日

昭和 54 年 8 月 細則一部追加

平成 2 年 3 月 22 日 内規, 細則一部修正

平成 7 年 3 月 27 日 細則一部修正

平成 9 年 7 月 28 日 内規一部修正、細則修正及び追加

平成 16 年 3 月 16 日 改正

平成 16 年 3 月 16 日 委員会名変更

平成 16 年 3 月 16 日 内規一部修正

平成 18 年 3 月 8 日 内規一部修正

平成 29 年 9 月 22 日 内規・細則一部修正及び追加

## (目 的)

第 1 条 水工学委員会（以下委員会という）は、土木学会の基本方針にしたがい、水工学ならびにこれに関連する問題の研究、調査およびこれの推進をはかることを目的とする。

## (活 動)

第 2 条 委員会は、上記の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 水工学ならびにこれに関連する問題の研究、調査
- (2) 講演会、講習会、研修会、見学会等の開催
- (3) 水工学に関係する国内および国外の学協会関係機関との研究連絡
- (4) 水工学に関する刊行物発刊の企画編集等
- (5) その他目的達成のために必要な事項

## (構 成)

第 3 条 委員会の構成は次のとおりとする

- (1) 委員会は、委員 50 名以内を以て構成する。
- (2) 委員会に委員長 1 名、幹事長 1 名、論文集編集幹事長 1 名および幹事を置く。  
なお、必要あるときは副委員長 1 名を置くことができる。
- (3) 委員長、副委員長、幹事長および論文集編集幹事長が執行部を構成する。執行部は、水工学委員会における決定の執行に責任をもつ。
- (4) 委員会は事業を遂行するために必要あるときは、小委員会および部会を設け特定の事項について研究、調査等を行うことができる。
- (5) 幹事長、論文集編集幹事長、部会長および幹事は、幹事会を構成する。幹事会は、委員長を補佐し、委員会の事務を処理する。

## (委員の任期および選出)

第4条 委員長・委員等の選出方法と任期は次のとおりとする。

- (1) 委員の任期は2年とする。
- (2) 委員会の運営上必要と認められるときは、任期満了委員を再任することができる。
- (3) 任期半ばで委員が交代するときは、後任委員の任期は前任者の任期を引き継ぐものとする。
- (4) 委員の選出は、細則による。
- (5) 委員長は前任の委員任期中の最終の水工学委員会において、委員の投票により選出する。なお、選挙は委員長選挙細則に基づいて行う。
- (6) 副委員長を置く場合には、委員長の指名による。
- (7) 幹事長および論文集編集幹事長は、委員長の指名による。

(委員会の運営)

第5条 委員会の運営は次のとおりとする。

- (1) 委員会は、原則として年2回開催する。
- (2) 事業計画および予算  
委員会は、土木学会委員会規程第9条（事業計画および予算）の規程および理事会の決定に従い『事業計画および予算』を作成し調査研究部門担当理事を経て提出する。
- (3) 事業報告  
委員会は、土木学会委員会規程第10条（事業報告）の規程および理事会の決定に従い『事業報告』を作成し調査研究部門担当理事を経て提出する。
- (4) 成果の報告  
本委員会は、土木学会委員会規程第8条（成果の報告）の規程に従って、毎年度、事業成果を理事会に報告するとともに、土木学会誌・土木学会ホームページ等を通じて会員等に公表する。

(事務局)

第6条 委員会を運営するにあたり土木学会事務局の支援を要請することができる。

(内規の変更)

第7条 本内規の改正は、理事会の承認により行う。

# 平成29年度 第62回水工学講演会 開催計画

- 日程: 2018年3月5日(月)～7日(水)の3日間
- 場所: 岡山大学津島キャンパス  
(〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1)  
<http://www.okayama-u.ac.jp/>

※上記の日程で講義室等を予約済み.

- 幹事: 前野詩朗(岡大), 吉田圭介(岡大)

# 交通アクセス

- JR岡山駅から約2.5km. 岡電バス「岡大西門経由岡山理科大」行で「岡大西門」まで10分程度. タクシーの場合8分程度. ラッシュ時(特に雨の日)は大学周辺が渋滞しますので余裕を持って出発して下さい.
- JR岡山駅からJR法界院駅(約4分), 法界院駅から徒歩10分程度(約900m).
- 岡山空港からは, 岡山空港2番乗り場から「岡山駅西口」行で「岡山大学筋」で下車, 徒歩7分程度. ノンストップ便は「岡山駅」で下車, 岡山駅からは上記の各種交通機関を利用.
- 岡山コミュニティサイクル「ももちやり」: 駅周辺と大学にポートがあります. 天気が良ければ駅から大学までレンタル自転車で15分程度.



# 講演会場

- 第1会場(開会式, 特別講演, アゲール, 河川シンポ等):  
一般教育棟B41室(280名)
- 第2~6会場:  
一般教育棟A41室(255名), 同B33室(183名),  
同B32室(124名), 同A37室(121名), 同A36室(120名)
- 総合受付: 一般教育棟1階ロビー, or 3階ロビー
- 委員会用会場, 事務局用:  
講義室4部屋(61名2部屋, 75名2部屋)  
その他: 展示室として演習室1部屋を使用予定

\* 上記講義室・演習室は全て同じ建物内にあります。

# 特別講演の予定(2018年3月6日午後)

- 15:00～16:10 金田義行氏  
(香川大学 学長特別補佐, 地域強靱化研究センター長)  
「再来する南海トラフ巨大地震への備え -減災科学の勧め-」
- 16:20～17:30 小嶋光信氏  
(両備グループ代表, 津田永忠顕彰会会長)  
「稀代の土木巧者・津田永忠の技術と心」
- 17:40～18:10 福岡捷二先生  
「(仮題)中藤達昭先生(Iowa大学)の業績紹介」

※ 懇親会は18:30～20:30に行います。

# 特別講演の内容詳細

- 金田義行氏(香川大学学長特別補佐, 地域強靱化研究センター長): 近い将来発生が予測されている南海トラフ地震による津波やDONETに関する講演
- 小嶋光信氏(両備グループ代表, 津田永忠顕彰会会長): 岡山藩の社会基盤を造った津田永忠が行った土木工事(主に百間川築造, 石樋, 大水尾, 沖新田など)に焦点を当てた講演

# その他

- 食堂など:  
会場近辺に生協食堂(津島キャンパスに3箇所), 生協売店, コンビニなど.
- 懇親会について:  
会場に近い生協食堂3F(100名程度可)を貸し切りで行う予定.
- ホテル:  
他学会と開催時期が重なる可能性がありますので早めにご予約下さい.

# 予算関係

- 支出(予定):
  - 会場費: 391,080円 ← 3日間(8:00~18:00)
  - アルバイト: 昨年と同じ程度.
  - その他:
- 収入:
  - 八雲環境化学振興財団: 開催助成 30万円
  - 中国電力技術研究財団: 開催助成 20万円
  - おかやま観光コンベンション協会: 申請検討中

# おかやま観光コンベンション協会 補助金要綱より一部抜粋

- 補助金交付条件:開催後の必要書類(第8条)
  - ・会議録, 収支決算書, 参加者名簿(頭数)
  - 日本人(氏名, 居住都道府県), 外国人(氏名, 国籍)
- 補助金額:区分①～⑧に応じて, 交付される. (第4条)

区分	宿泊者の数		基本補助金額	うち外国人 宿泊者の数	国際会議加算
①	50人以上	100人未満	50,000円	20人以上	250,000円
②	100人以上	200人未満	75,000円		
③	200人以上	500人未満	150,000円		
④	500人以上	1,000人未満	300,000円	50人以上	500,000円
⑤	1,000人以上	1,500人未満	500,000円		
⑥	1,500人以上	2,000人未満	750,000円		
⑦	2,000人以上	3,000人未満	1,000,000円		
⑧	3,000人以上		1,500,000円	150人以上	1,000,000円

# これまでの参加者数

開催回(年月)	開催場所	発表件数	参加者数
第51回(2007.3)	法政大学	247	605
第52回(2008.3)	広島大学	237	399
第53回(2009.3)	芝浦工業大学	255	677
第54回(2010.3)	北海道大学	276	459
第55回(2011.3)	東京大学	283	535
第56回(2012.3)	愛媛大学	301	478
第57回(2013.3)	名城大学	303	516
第58回(2014.3)	神戸大学	274	478
第59回(2015.3)	早稲田大学	249	472
第60回(2016.3)	東北工業大学	231	465
第61回(2017.3)	九州大学	249	590

## 水工学講演会

回	年度	北海道	東北	関東	中部	関西	四国	中国	西部
38	1993			中央大					
39	1994			中央大					
40	1995			中央大					
41	1996			中央大					
42	1997							鳥取	
43	1998					立命館大			
44	1999		日大						
45	2000			東工大					
46	2001				名工大				
47	2002			早稲田大					
48	2003								熊本大
49	2004			国士館大					
50	2005					京都大			
51	2006			法政大					
52	2007							広島大	
53	2008			芝浦工大					
54	2009	北大							
55	2010			東大生研					
56	2011						愛媛大		
57	2012				名城大				
58	2013					神戸大			
59	2014			早稲田大					
60	2015		東北工大						
61	2016								九州大
62	2017							岡山大学	
62	2018	北大							

## 2018年度水工学講演会の準備状況

- 開催予定期間：2018年の11/25(日),26(月),27(火)
- 使用する部屋：北海道大学学術交流会館（札幌駅から徒歩5分程度）

<https://www.hokudai.ac.jp/bureau/property/s01/>

大講堂（310席）・中講堂（196席）・第一会議室（150席）・第3会議室（50席）・第4会議室（50席）他、小会議室3つ（準備室として）

その他、同大学内のクラーク会館も予約済み

<https://www.hokudai.ac.jp/gakusei/campus-life/facility/clarke/#item31>

- 料金：

学術交流会館（開館時間9：00-19：00）							
2018.11.25-27		11/25		11/26-27			
会議室名	サイズ（名）	料金（土日1h）	土日利用時間	土日料金	料金（平日1h）	平日利用時間	平日料金
講堂	310	¥12,500	12	¥150,000	¥10,400	24	¥249,600
小講堂	196	¥7,600	12	¥91,200	¥6,300	24	¥151,200
第1会議室	150	¥7,100	12	¥85,200	¥5,900	24	¥141,600
第2会議室	24	¥1,400	12	¥16,800	¥1,200	24	¥28,800
第3会議室	50	¥1,400	12	¥16,800	¥1,200	24	¥28,800
第4会議室	50	¥1,400	12	¥16,800	¥1,200	24	¥28,800
第5会議室	10	¥800	12	¥9,600	¥700	24	¥16,800
第6会議室	12	¥800	12	¥9,600	¥700	24	¥16,800
応接室		¥700	12	¥8,400	¥600	24	¥14,400
ホール		¥7,400	12	¥88,800	¥6,200	24	¥148,800
共用設備				¥0	¥0		¥0
サービスコーナー				¥0	¥0		¥0
クラーク会館集会場	510	¥9,940	12	¥119,280	¥8,280	24	¥198,720
クラーク会館大ホール	90	¥2,620	12	¥31,440	¥2,180	24	¥52,320
合計				¥643,920			¥1,076,640

詳細スケジュール(案)：

- 5月1日(火) 投稿 WEB サイトオープン
- 5月31日(木) 投稿締切
- 6月6日(水),7日(木) 第1回編集幹事会・小委員会 (査読者選定) cf.  
河川シンポ(6/12, 13)
- 6月29日(金) 査読〆切
- 7月9日(月) 第2回編集幹事会・小委員会 (一次査読, 修正依頼, 返却処理) (メール審議)
- 7月31日(火) 修正原稿〆切
- 8月14日(火) 第3回編集幹事会 (最終判定, プログラム編成)
- 8月下旬 最終原稿締切
- 9月末~10月下旬頃までに プログラム, 座長確定。その後 CD 作成、郵送など
- 11月25(日), 26(月), 27(火) 水工学講演会@北海道大学 cf. 海岸工学  
(11/14, 15, 16)

水シンポジウム

回	年度	北海道	東北	関東	中部	関西	四国	中国	西部	担当部会
1	1996							鳥取		
2	1997					兵庫				
3	1998		福島							
4	1999			東京						
5	2000								熊本	
6	2001				富山					
7	2002	札幌								
8	2003						愛媛			
9	2004							広島		
10	2005					大阪				
11	2006		宮城							
12	2007				愛知					
13	2008			千葉						
14	2009				新潟					河川
15	2010								福岡	環境水理
16	2011					京都				基礎水理
17	2012				岐阜					水文
18	2013						高知			河川
19	2014								長崎	環境水理
20	2015				福井					基礎水理
21	2016							山口		水文
22	2017								沖縄	河川
23	2018				静岡					環境水理

未開催県		岩手県	茨城県	三重県	滋賀県	徳島県	島根県	佐賀県
		山形県	栃木県	長野県	奈良県	香川県	岡山県	大分県
		秋田県	群馬県	石川県	和歌山県			宮崎県
		青森県	埼玉県	山梨県				鹿児島県
			神奈川県					

# 「第23回水シンポジウム2018 in ふじのくに・沼津」

## 第 1 回実行委員会・企画部会 合同会議

日時：平成 29 年 10 月 10 日（火） 14：30～

場所：静岡県庁 別館 8 階 特別会議室（和室）

### 次 第

#### 1 開会

#### 2 挨拶

#### 3 議事

(1) 実行委員会規約および (資料1)

実行委員会等の構成について (資料2)

(2) 日程・会場について (資料3)

(3) メインテーマ（試案）について (資料4)

(4) 分科会の方向性（試案）について (資料5)

(5) プログラム（案）について (資料6)

(6) 予算（案）について (資料7)

(7) 開催準備スケジュール（案）について (資料8)

(8) その他

#### 4 閉会

「第23回水シンポジウム2018 in ふじのくに・沼津」  
実行委員会規約（案）

（名 称）

第1条 本会は、「第23回水シンポジウム2018 in ふじのくに・沼津」実行委員会（以下「実行委員会」という。）と称する。

（目 的）

第2条 実行委員会は「第23回水シンポジウム 2018 in ふじのくに・沼津」（以下「水シンポジウム」という。）の円滑かつ効果的な開催を図ることを目的とする。

（実行委員会）

第3条 実行委員会は、水シンポジウムの開催及び運営に関する企画事項の決定を行うものとし、実行委員は別表1に掲げる者若しくは職にある者をもって充てる。

2 実行委員長は、土木学会水工学委員会委員長の職にある者をもって充てる。

3 実行委員長は、会務を総括し、実行委員会を代表する。

4 実行委員会に顧問を置くことができる。

5 顧問は、実行委員会の活動に際し、指導と助言を行うものとする。

6 実行委員会の会議は、実行委員長が召集するものとし、会議の議長は実行委員長が務める。

ただし、実行委員長に事故等のあるときは、あらかじめ実行委員長が指名する実行委員がその職務を代行する。

7 実行委員長が必要と認めたときには、実行委員長の指名した者を実行委員に加えることができる。

（企画部会）

第4条 水シンポジウムの開催内容に関する総合的な企画立案を行うため、企画部会を設置する。

2 企画部会員は別表2に掲げる者若しくは職にある者をもって充てる。

3 企画部会長は、土木学会水工学委員会幹事長の職にある者をもって充てる。

4 企画部会長が必要であると認めたときは、企画部会長の指名した者を企画部会員に加えることができる。

- 5 企画部会の会議は、企画部会長が召集するものとし、会議の議長は企画部会長が務める。ただし、企画部会長に事故等のあるときは、あらかじめ企画部会長が指名する企画部会員がその職務を代行する。

#### (監 事)

第5条 監事は、実行委員会の会計を監査するものとし、実行委員長の指名した者をもって充てる。

#### (任 期)

第6条 実行委員、顧問、企画部会員、監事の任期は、この実行委員会が解散するまでとする。

#### (事務局)

第7条 実行委員会および企画部会の事務を処理するため、事務局を置く。

- 2 事務局員は別表3に掲げる者若しくは職にある者をもって充てる。
- 3 事務局長は、静岡県交通基盤部河川砂防局河川企画課課長代理の職にある者をもって充てる。
- 4 事務局長が必要であると認めたときには、事務局の指名した者を事務局が行う会議に参加させることができる。
- 5 事務局は、静岡県交通基盤部河川砂防局河川企画課に置く。

#### (経 費)

第8条 実行委員会の経費は、分担金その他の収入をもって充てる。

- 2 経費の精算は、事業終了後に行う。

#### (資金の管理および支出)

第9条 実行委員会の資金の出納を管理するため会計を置くこととし、実行委員長の指名した者をもって充てる。

#### (その他)

第10条 この規約に定めるもののほか、水シンポジウムの開催に関し必要な事項は、実行委員会に諮り、実行委員会の委員長がこれを定める。

附 則 この規約は、平成29年10月 日から施行する。

「（仮称）第23回 水シンポジウム2018 in ふじのくに・沼津」  
実行委員会等名簿

別表1 実行委員会（◎実行委員長）

	機関名	役職名	氏名	備考
◎	土木学会水工学委員会	委員長	清水 康行	北海道大学
	中部地方整備局河川部	部長	児玉 好史	
	静岡県交通基盤部	部長	鈴木 克英	
	沼津市建設部	部長	鈴木 文男	
	土木学会		牛山 素行	静岡大学
	土木学会 水工委員会	幹事長	竹林 洋史 ※1	京都大学
	中部地方整備局沼津河川国道事務所	所長	藤井 和久	
	静岡県交通基盤部	河川砂防局長	長縄 知行	

※1 企画部会を兼務

※2 委員がやむを得ない事由により欠席する場合、その委員がその所属する団体や会の役員等の中から代理人を定め、その者を代理人として出席させることができることとする。

別表2 企画部会（○企画部会長）

	機関名	役職名	氏名	備考
○	土木学会 水工学委員会	幹事長	竹林 洋史	京都大学
	土木学会 水工学委員会	環境水理部会長	矢島 啓	島根大学 (予定)
	土木学会 水工学委員会		戸田 祐嗣	名古屋大学
	土木学会 水工学委員会		大石 哲	神戸大学
	土木学会 水工学委員会		田代 喬	名古屋大学
	中部地方整備局河川部	河川計画課長	栗林 孝典	
	中部地方整備局沼津河川国道事務所	副所長	杉山 紀行	
	静岡県交通基盤部河川砂防局河川企画課	課長	太田 博文	
	沼津市建設部河川課	課長	橋本 大介	

別表3 事務局

	機関名	役職名	氏名	備考
	土木学会	研究事業課	松沼 岳	
	土木学会 水工学委員会		溝口 敦子	名城大学
	土木学会 水工学委員会		横嶋 哲	静岡大学
	中部地方整備局河川部河川計画課	課長補佐	細野 貴司	
	中部地方整備局河川部河川計画課	調査第一係長	森下 慎太郎	
	中部地方整備局沼津河川国道事務所調査課	課長	程谷 浩成	
	中部地方整備局沼津河川国道事務所調査課	調査係長	楡濱 学	
	静岡県交通基盤部河川砂防局河川企画課	課長代理	望月 嘉徳	事務局長
	静岡県交通基盤部河川砂防局	主任	半澤 栄治	
	静岡県交通基盤部河川砂防局河川企画課	主任	三井 良太	
	静岡県交通基盤部河川砂防局河川海岸整備課	主任	小野田 紘貴	
	沼津市建設部河川課	課長補佐	福岡 知己	
	沼津市建設部河川課	管理係長	若林 伸弘	
	沼津市産業振興部観光戦略課	専門官	渡辺 勝巳	

## 日程・場所について

## 【日程】

○ これまでの水シンポジウムの実績や夏休み期間中の開催に配慮し

・平成30年 8月23日（木）から8月24日（金）〔2日間〕

の開催としたい。

8月23日（木） シンポジウム

8月24日（金） 現場見学会

## 【場所】

会場については、人数、地理的条件、会場使用料などを考慮し、次のとおりとしたい。

プラサ ヴェルデ（ふじのくに千本松フォーラム）

沼津市大手町1-1-14（JR沼津駅北口）

○ メイン会場、ホールA-2（1階）（510席）

○ 第1分科会会場：ホールA-2（1階）（510席）

○ 第2分科会会場：ホールA-1（3階）（360席）

・控え室等：（会議室を確保する予定）

「第23回水シンポジウム2018 in ふじのくに・沼津」  
メインテーマ（試案）について

再発見!! ふじのくにの<sup>みず</sup>水チカラ  
～ 水と私たちの暮らしのこれからを考える ～

<主旨>

水は、“ふじのくに”に、様々な恩恵と多様な魅力をもたらしています。

とりわけ、霊峰富士を間近に眺める静岡県東部地域では、富士山が育む豊富な湧水や天城山系を源とする清らかな流水が、古くから私たちの暮らしの様々な活動と深い関わりをもち、地域の営みや発展を支えてきました。狩野川をはじめとする市街地の水辺空間は、地域の顔となる景観を成し、日常的な市民生活の中に溶け込み、住む人にやすらぎや大いなる活力を与え、訪れる人の心を躍らせています。さらには、水辺をフィールドとした市民活動や地域連携は、豊かな水辺環境の創出や保全にとどまらず、人づくり、地域づくりにつながる大きな推進力となっています。こうした水辺の魅力は、言うまでもなく後世に引き継ぐべき地域の貴重な財産です。

一方、近年では、強い勢力を保ったまま来襲する台風や大きな破壊力を伴う洪水のニュースが頻繁に全国から届き、自然の荒々しさを目にする機会が多くなりました。勢いを増す自然の猛威には私たちは非力であり、水の威力もまた、私たちの暮らしに大きな影響力を持っています。天城山系や富士山麓は、年平均降水量3,000mmを越える多雨地域であり、降雨は梅雨期、台風期に集中する傾向にあります。甚大な被害をもたらした狩野川台風から60年を迎える今こそ、関係者が協力し、知力や技術力を集結して水害への耐力を高めることが求められています。さらには、私たち一人ひとりが、水害リスクの適切な知識と行動力を身につけることで、水害に強い社会を築いていく必要があります。

“ふじのくに”の水が持つチカラを様々な視点から見つめ直し、私たちの暮らしとのつながりを改めて議論して、これからの水とのつき合い方についての提案を全国へ発信します。

## 「第 23 回水シンポジウム 2018 in ふじのくに・沼津」 分科会の方向性（試案）について

### ○ 第 1 分科会 <学会>

「(仮) 河川空間を活用したまちづくり、これからの水活用の視点を考える」

水辺の空間を活用したまちづくりが全国各地で取り組まれている。静岡県東部地区の水辺で新たなにぎわいの創出を図るうえでの強み（水の魅力）について、学術的な知見を踏まえて共有し、地域特性を感じるオンリーワンの水辺づくりを進める方策を探る。

<キーワード>

- 産学官民が連携したにぎわい創出に資する取組（環境教育等(全国事例)）
- 水辺利用において考慮したい河川特性
- 狩野川の水辺を利用したにぎわいの創出（かのがわ風のテラス）
- 河川利用の拠点づくり（かななみ川の駅）

### ○ 第 2 分科会 <行政>

「(仮) 狩野川台風から 60 年、これからの水害対策を考える」

近年の気象現象の変化、豪雨の発生状況などを共有し、自然災害（水の威力）から生命、財産を守り、減災を図るために、防災に関わる行政はもとより、教育現場、自主防災組織など、地域住民のそれぞれの立場で、取り組み事例等を共有し、住民の高い防災意識のあり方、減災に不可欠な地域防災力の向上策を探る。

<キーワード>

- 近年の降雨傾向（気象）
- 水防災意識社会再構築に関わる取り組み（水防災意識再構築）
- 狩野川台風を風化させないための取り組み（防災教育）

### 分科会の進め方

パネルディディスカッション（コーディネータ、パネリスト：6名程度）  
（パネリストの選定対象）

- ・ 土木学会水工学委員会
- ・ 行政職員（首長、河川管理者、防災関係、気象庁など）
- ・ 市民活動団体の代表者
- ・ 地域防災担当者（自治会役員など）
- ・ 教育関係者
- ・ 報道機関職員

※ 「方向性（詳細）」、「テーマ」、「登壇者」等は、企画部会で検討し、次回、実行委員会にて決定する。

「第23回水シンポジウム2018 in ふじのくに・沼津」  
プログラム(案)

■ 8月23日(木) 第1日目 シンポジウム

会場：プラサ ヴェルデ (500人を想定)

【午前の部：メイン会場(ホールA-2)】

9:00 開 場

9:30 開 会 (30分)

シンポ趣旨説明 (2分) 司会

開会挨拶 (8分) 実行委員会委員長

実行委員紹介 (2分) 司会より紹介、壇上一礼

来賓挨拶 (各5分) 中部地方整備局長、静岡県知事、沼津市長

プログラム案内 (3分) 司会

10:00 特別講演 (50分) 講師未定

10:50 基調講演 (60分) 講師未定

11:50 昼 休 憩

【午後の部：分科会等】

12:50

テーマ別分科会 (130分)

第1分科会 担当：土木学会

会場：ホールA-2 510席

第2分科会 担当：行政

会場：ホールA-1 360席

15:00 休憩

15:10 児童生徒・市民団体等による発表 (全体会議打合せ) (40分)

15:50 全体会議 (60分)

各分科会まとめとメッセージ発信

16:50 次回開催県挨拶 (10分)

17:00 閉 会

【パネル展示】 (会場：プラサ ヴェルデ ホワイエ 利用)

■ 8月24日(金) 第2日目 現地見学会 (見学先：未定)

定員 約40人を想定

## 「第23回水シンポジウム2018 in ふじのくに・沼津」予算（案）

## ■収入

(単位：千円)

項 目		金 額	備 考
負担金	土木学会水工学委員会	200	
	静岡県	200	
	沼津市	200	
	負担金 小計	600	
助成金	(公財)河川財団	1,800	H29実績 1,800千円
	(一財)防災研究協会	200	H29実績 200千円
	共催団体助成金	1,730	下記参照
	助成金 小計	3,730	
雑収入	現地見学会参加費（弁当、バス代等）	80	2千円×40人
	雑収入 小計	80	
合 計		4,410	

## ■支出

(単位：千円)

項 目		金 額	備 考
運営経費	会場・設備費	613	前日午後(準備)、当日の施設、及び付属設備の借上費用（見積もり）
	企画、運営、設営等（運営委託外注）	3,120	過去実績より
	講演者、分科会出演者等	560	過去実績より
現地見学会経費	昼食、見学科等	55	過去実績より
諸経費	会議費、印刷費、通信費	62	過去実績より
合 計		4,410	

## ◇ 共催協力要請先（案） ◇

- ・一般社団法人 日本建設情報総合センター（JACIC） 中部地方センター
- ・一般社団法人 中部地域づくり協会
- ・一般社団法人 日本建設業連合会 中部支部
- ・一般社団法人 建設委コンサルタンツ協会〔JCCA〕 中部支部
- ・社団法人 全国地質調査業協会連合会
- ・一般社団法人 中部地質調査業協会
- ・一般社団法人 静岡県建設業協会
- ・一般社団法人 静岡県建設コンサルタンツ協会
- ・一般社団法人 静岡県測量設計業協会
- ・静岡県地質調査業協会
- ・静岡県河川協会

## 「第23回水シンポジウム in ふじのくに・沼津」開催準備スケジュール（案）

年月	会議名			主な議題	備考 (山口大会)
	委員会	企画部	事務局		
<b>平成29年度</b>					
	(事前調整)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・実行委員会メンバーの選出（内諾）</li> <li>・シンポジウムテーマ、分科会概要検討</li> </ul>	
10月10日			①	・第1回実行委員会、企画部会の事前調整	11月17日
10月10日	①	①		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実行委員会の設立</li> <li>・開催日程・会場の決定</li> <li>・メインテーマ、開催内容、予算(案)の審議</li> <li>・基調講演の企画提案</li> <li>・分科会のテーマ、役割分担の企画提案</li> </ul>	11月17日
11月末				河川財団 助成金申請（申請期限：11月末）	11月27日
12月末まで				防災研究協会 助成金申請（6ヶ月前まで）	1月8日
12月末まで				協賛団体への協力依頼・調整	
2月中旬		②	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分科会のテーマ、内容の企画提案</li> <li>・現地見学会の企画提案</li> <li>・広報計画及び会場レイアウトの検討</li> <li>・開催運営支援業務委託の検討</li> </ul>	2月12日
<b>平成30年度</b>					
4月上旬				・開催運営支援業務委託の発注	4月
5月中旬			③	・シンポジウム当日の動員計画等	5月31日
5月下旬	②	③	④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開催内容の最終決定</li> <li>・広報計画の最終決定</li> <li>・会場レイアウトの最終決定</li> </ul>	6月17日
7月下旬			⑤	・当日運営の最終確認	7月
8月22日				・会場準備及び各種リハーサル	
8月23日				「(仮称) 第23回水シンポジウム in ぬまづ」	8月25日
8月24日				現地見学会	8月26日
12月末			⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決算</li> <li>・最終報告書の確認</li> </ul>	10月

## 水工学に関する夏期研修会

回	年	北海道	東北	関東	中部	関西	四国	中国	西部
1	1965					京都			
2	1966	札幌							
3	1967			東京					
4	1968				名古屋				
5	1969								福岡
6	1970		仙台						
7	1971							広島	
8	1972			東京					
9	1973					大阪			
10	1974						徳島		
11	1975	札幌							
12	1976								福岡
13	1977				長野				
14	1978			東京					
15	1979		仙台						
16	1980					京都			
17	1981	札幌							
18	1982							岡山	
19	1983								福岡
20	1984				岐阜				
21	1985			東京					
22	1986		岩手						
23	1987					神戸			
24	1988	札幌							
25	1989							鳥取	
26	1990								福岡
27	1991				金沢				
28	1992			東京					
29	1993		秋田						
30	1994					大阪			
31	1995	北見							
32	1996							宇部	
33	1997						徳島		
34	1998				名古屋				
35	1999								北九州
36	2000			東京					
37	2001		山形						
38	2002					京都			
39	2003							岡山	
40	2004	釧路							
41	2005						愛媛		
42	2006				岐阜				
43	2007								福岡
44	2008			東京					
45	2009		郡山						
46	2010					神戸			
47	2011							広島	
48	2012	札幌							
49	2013				名古屋				
50	2014								北九州
51	2015			東京					
52	2016		秋田						
53	2017					大阪			
54	2018							山口	

# 平成30年夏期研修会準備状況

## 実行委員

清水水工学委員長、朝位水工学委員、日向海岸工学委員

## 日程案

第一案：9月3日(月)～4日(火)の二日間

第二案：9月6日(木)～7日(金)の二日間

第三案：8月20日(月)～21日(火)の二日間

## 参考：

・8月23日(木)～24日(金)の二日間は、水シンポジウム(静岡県沼津市)

・8月29日(水)～31日(金)の三日間は、全国大会(北海道大学)

## 会場案

第一案：山口県総合保健会館(山口市吉敷下東三丁目1番1号)(昨年度水シンポジウム会場)

第二案：山口県教育会館(山口市大手町2-18) (山口県庁近く)

第三案：山口大学工学部(宇部市常盤台2-16-1)

文責 山口大学 朝位孝二